

■ 収蔵文化財展示場



収蔵文化財展示場（外観）

近年、文化財の公開と活用を積極的に推進していく動きが高まるなか、適切な保存と管理が求められています。

このことを踏まえ、町に緑りのある古文書などの歴史的史料を収集し、良好な状態で保存・公開する施設として建設されたものです。

建物は、木造二階建・切妻造椽瓦葺、建築面積・約102㎡で平成10年3月に竣工、文化財への影響を最小限に抑えるため1年の曝涼期間をおき、同11年4月に開館しました。 郵政省簡易保険融資施設

設備概要



◀ 特別収蔵室

主に近世の古文書・近代議会議事録、石橋忍月関係資料を収蔵しています。湿度の急激な変化により劣化が進みやすいため、調湿機能付の移動書架を導入。内壁は杉板張りとし室内は「変温恒湿」の弱酸性に保っています。

重要資料

天授塔 ▶

南北朝時代、猫尾城付近の合戦で没した男女を弔うため建立されたとみられる宝篋印塔の一部。凝灰岩製の塔身に「禪徹禪門 天授二年 妙覺□□」を刻み天授塔の名称があります。昭和4(1929)年5月、旧八女高等女学校長 平井武夫氏が発見し県立福島高等学校に所蔵されてきましたが、平成14年12月に黒木町へ譲渡されました。



◀ 古備前(三耳壺)と埋納銭【石崎和子氏寄託資料】

昭和37(1962)年4月、猫尾城跡東方の野田山のみかん畑から石崎幸男氏により発見されました。古備前焼の三耳壺に9,400枚余りの洪武通宝をはじめとする宋銭が埋納され、備蓄銭もしくは供養銭とみられています。



■ 石橋忍月文学資料館

明治期の先駆的な文芸評論家で、森 鷗外との「舞姫」論争を展開し、文壇で活躍した旧上妻郡湯辺田村(現・八女市黒木町)出身の石橋忍月の生家を移築復元したものです。主屋は、木造二階建・寄棟造鉄板葺(鈎屋)、建築面積・約138㎡で、加藤家の協力を得て平成5年4月に開館しました。

忍月と隈本勝三郎は、少年時代に黒木塾で研鑽を積んだ塾友仲間、勝三郎の旧邸内に生家を移築したのもその由縁です。

石橋忍月文学資料館（外観）



石橋忍月[1865~1926]



石橋忍月略年譜

- 慶応元(1865)年 旧上妻郡湯辺田村(現・八女市黒木町)において、父・茂、母・フクの三男として生まれる 本名・友吉
- 慶応2(1866)年 叔父 石橋養元の養子となる
- 明治6(1873)年 このころ黒木小学校入学、黒木塾入塾
- 明治20(1887)年 東京大学法科入学
- 明治23(1890)年 森 鷗外と「舞姫」論争を展開する
- 明治24(1891)年 大学を卒業し内務省入省、翌年辞す
- 明治26(1893)年 金沢へ赴き「北国新聞」編集顧問となる
- 明治28(1895)年 金沢で弁護士を開業し、横山 翠と結婚
- 明治32(1899)年 長崎地方裁判所判事となる
- 以後、弁護士・県会議員などを歴任する
- 大正15(1926)年 長崎市銅座町にて病没 享年60歳
八女市西古松町の浄土宗「無量寿院」に葬る
法号・清閑院湛誓松風忍月居士

文学の系譜は脈々と

忍月の三男で文芸評論家の山本健吉[本名・石橋貞吉(文化勲章受章)]の参考資料を併せて展示しています。

また、短歌雑誌『やまなみ』を創刊し、黒木町で作歌活動を続けた歌人・菊池 剣、直木賞作家・安部龍太郎(剣持出身)、女優・黒木 瞳(黒木出身)の著作なども紹介しています。



山本健吉[1907~1988]



菊池 剣[1893~1977]

常設展示室



■ 旧隈本家住宅【福岡県指定有形文化財(建造物)】



旧隈本家住宅（外観）

旧隈本家住宅は、明治2(1869)年に旧上妻郡八幡村新庄(現・八女市)の隈本家から、同郡今村(現・八女市黒木町)に分家した初代・隈本儀三郎によって、明治16(1883)年に建築された民家です。建物は、矢部川支流の笠原川から取水した上井手用水沿いに屋敷を構え、玉石積上に生垣を巡らせ南面して主屋が建ちます。

主屋は、木造二階建・入母屋造椽瓦葺、建築面積・約296㎡で、南側に角屋を突き出し、外壁は真壁造白漆喰仕上げ、内部は、西側下手に土間、東側突出部に西面して式台付玄関を設けます。敷地内には、防火用水を兼ねた泉水、屋敷周りの大小の玉石積、入口から玄関先に至る意匠を凝らした石畳などの工作物も一体的に残されています。

この民家は、明治前期の地主農家を代表する大規模な住宅として、平成23年3月に福岡県有形文化財(建造物)に指定されました。

*棟木墨書に「明治十六歳三月朔日大吉辰」「隈本儀三郎正義建立」「棟梁熊本藤兵衛源正親」が確認されています。

伝統のかたち



▲ 和小屋による小屋組(屋根裏)

▼ 竈まわり



▼ 玉石積と石畳



▲ 五右衛門風呂